

いきものたちのにぎわいとつながり、 それが**生物多様性**

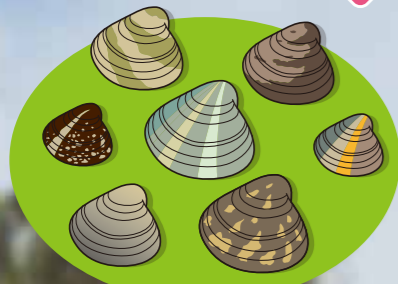
生物多様性とは、「生命の豊かさ」を表す言葉です。
山や海に当たり前にいる生きものたちは、実は気が遠くなるほど長い年月を経て多種多様に進化してきました。その中で、食べたり食べられたり、利用したりされたりしながら、お互いに特別な関係を築き、支えあって生きてきました。人間も、まぎれもなくその一員で、他の生きものからの恵みによって生きています。

生物多様性の 3つの視点



種の多様性

地球には知られているだけでなんと170万種もの生物がいます。そして直接・間接的に支えあって生きています。



遺伝子の多様性

同じ種の中にも個性（個体差・地域差）があります。これは親から受け継いだ遺伝子の違いによるものです。多様な個性は多様な環境への適応を可能にします。多様な個性は新しい種ができる原動力ともなります。



生態系の多様性

多様な種が生きていくためには多様な環境が必要です。われわれの住む沖縄には、沖縄にしかない環境があり、だからこそ沖縄にしかない生物がいるのです。

生物多様性 おきなわ戦略



概要版

生物多様性おきなわ戦略




概要版

◎ 沖縄県


発行 沖縄県環境生活部自然保護課
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2
電話 098-866-2243
aa039004@pref.okinawa.lg.jp

◎ 沖縄県






おきなわの食生活は、
自然の恵みである魚や農産物などにより
支えられてきました。
また、海の生きものたちが造り出した
石灰岩やサンゴ岩などは、
民家の石垣などの建築資材として
活用されてきました。




河口域に広がるマングローブ林は
河川水の流速を緩める効果があるため、
土砂の流出を防いでいます。
サンゴによって形成されているリーフは
台風などによる高波を減衰させ、
島内への波浪の侵入を防ぐ機能を果たしています。




ちむぐる
自然を大切に^{ちむぐる}する真心と、いきものとのゆいまーるを育む島々

自然からの豊かな恵みを受けて、私たちは暮らしています



自然からインスピレーションを受け、
御嶽信仰や伝統行事等沖縄独特の文化が
育まれてきました。
また、生きものたちが織りなす
沖縄の美しい自然環境は
沖縄観光の大きな魅力となっています。



私たちの呼吸に必要な酸素は、
植物の光合成によってつくられています。
豊かな土壌は、植物や生きものが
分解されることで形成されています。
地球上の生きものたちは、
豊かな生物多様性のうえに
成り立っています。

沖縄の自然

沖縄の生きものたちは、島が形成される何十万、何百万年という長い歴史の中で進化してきました。様々な環境の中に沖縄特有の自然があり、そこには多くの生きものが暮らしています。

森

森は多くの野生生物が生息・生育する生物多様性の豊かな場所です。沖縄北部のやんばる地域や西表島などの森林には、ヤンバルクイナやイリオモテヤマネコなど、世界でもここにしかない生きものの生息地となっています。

川

沖縄の川は距離が短いため、流れは速く、平地では緩やかになる特徴があります。河口域は広くマングローブ林がある川も見られます。川で一生を暮らすハゼやカニの中には、その島にしかない生きものもいます。

農地

農地は、その周辺の森林や川など、そこに暮らしている生きものと生態系を構成しています。農地における生態系は、野生生物に限らず、農作物や家畜などの動植物もこの生態系の一部を構成しています。

まち

人間の活動の中心となるまちにも、公園の緑地・河川・沿岸の干潟など、多様な生きものが暮らす場所があります。まちの公園や街路樹は鳥たちの通路や生活域となり、多くの野鳥が暮らしています。

干潟

干潟には、多くの生きものたちが共存し、そこに住む生きものたちが、水質をきれいにする働きをしています。また、多くの生きものがいることから、渡り鳥が餌場や休憩地として利用しています。

海

沖縄の海の特徴であるサンゴ礁生態系は、サンゴ群集に多くの生きものたちが集う生物多様性豊かな生態系です。また、海草類が生育する藻場は、子魚の保育場となり、アオウミガメやジュゴンの餌場にもなっています。

沖縄の自然の危機

豊かな自然がある沖縄県ですが、その自然は様々な危機に脅かされています。

-
- ★ 人間の活動や開発などが引き起こす負の影響要因による生物多様性の危機が続いています
- ★ 伝統的な知恵やルールによって管理されてきた里海や里山において、利用と管理の仕組みが失われつつあります
- ★ 他の地域の生きものである「外来種」が、元々いた生きもの同士のバランスを崩しています
- ★ 地球温暖化は気温や海水面の上昇を引き起こし、生きものが暮らす環境を変え、生き続けることを困難にしてしまう可能性があります
- ★ 米軍基地の存在により自然環境の適切な保全・活用が進んでいません

沖縄県は、生物多様性を保全・維持し、回復して次世代に引き継ぐため、

生物多様性 おきなわ戦略

を策定しました。

目標

沖縄の自然の危機が改善され、『自然を大切にする真心と、いきものとのゆいまーるを育む島々』を目指すため、「生物多様性おきなわ戦略」は以下の目標を掲げます。

2030年の目標 中長期目標

島々の生物多様性を育み、人と自然が共生する豊かな社会を形成する

2022年(10年間)の目標 短期目標

- (1) 生物多様性を保全・回復し、自然からの恵みを持続的に享受するための取組を拡大する
- (2) 生物多様性に関する理解を社会的に浸透させる

行動計画

目標達成に向けた取組

基本 施策 1

生物多様性の損失を止める

- 生態系を保全する区域を拡大し適正な管理を行います
- 世界自然遺産への登録を推進します
- 希少野生生物の保全を図ります

基本 施策 2

生物多様性を保全・維持し、回復する

- 陸域・水辺環境の保全・再生を推進します
- 赤土等流出防止対策に取り組めます
- 環境配慮型工法を推進します
- 環境影響評価制度の充実を図ります
- サンゴ礁、干潟などの保全・再生に取り組めます

基本 施策 3

自然からの恵みを賢明に利用する

- 自然と共生する農林水産業を推進します
- 自然と共生する観光産業を推進します
- 生物資源の有効活用を図ります

基本 施策 4

生物多様性に対する認識を向上させる

- 情報収集・発信と拠点の強化を図ります
- 市町村の地域戦略策定を促します
- 県内外の方々に生物多様性の理解促進を図ります

基本 施策 5

生物多様性の保全に関する取組に県民の参加を促す

- 様々な主体による活動の拡大を図ります
- 優良活動事例を共有し、広く発信します
- 県民参加を促す仕組みづくりを進めます